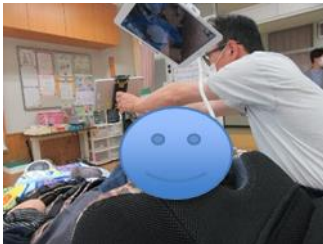


1人1台端末の活用による実践事例

(特別支援学校)

学校名	岡山県立西備支援学校	実践者名	岡田 優
実践場面 (教科、領域、行事等)	H R 活動（修学旅行の事前学習）		
単元・題材名	「陶芸を体験しよう。」「つくるものを考えよう。」		
学習目標・ねらい	・ 紙粘土の感触を感じながら教師と一緒に茶碗またはお皿の作り方を体験し、修学旅行当日どちらを作るか決める。 ・ 修学旅行に向けて陶芸のイメージをつかむ。		
対象の生徒の実態	・ 重度肢体不自由の男子生徒で、発語はなく「はい」「そうだ」は目を右側に向け、そうでないときには左側に向けて意思表示をする。 ・ 姿勢変換が難しく、常に仰臥位で過ごしているため、視界が限られている。		
活用の概要（使用アプリ名を含む） ※写真も掲載する			
使用機器：iPad（2台）…Meet で接続する。			
(1) 説明を聞く。（カメラ代わりの iPad を前方へ向ける。）			
 			
(2) 紙粘土を型に被せて、教師と一緒に形を整える。 (カメラ代わりの iPad で手元を映す。)			
  			
(3) 振り返り（できた物を映しながら発表する。）			
活用のポイント・改善策等			
・ iPad を2台使い Meet で接続し、前方で行われる教師の説明や自分の手元、友達の様子など、目の前に設置した iPad 画面で見ることができるようにした。普段からいろいろな場面で使っている視覚支援方法のため、集中して見て意欲的に活動できている。 ・ 周りの様子を見ることができるようになることで、それまでは視覚情報より音声情報が主な情報源になっていたが、視覚情報が加わることでより理解が高まりやすい。 ・ 自分の手元を見ることができるので、自分の手や指の感覚もつかみやすく作業的なことも比較的取り組みやすくなっている。			